

特別企画： 京都府内企業のメインバンク実態調査（2017 年）

8 年連続で京都銀行が首位 ～京都市内、「不動産」では京都中央信金が首位～

はじめに

2017 年も引き続き、地方銀行の大型再編が注目された 1 年だった。2 月には三重県を経営基盤とする第三銀行と三重銀行が経営統合を発表。3 月には近畿で関西アーバン銀行・近畿大阪銀行・みなと銀行の 3 行が、4 月には北陸で第四銀行と北越銀行の 2 行がそれぞれ経営統合することを発表した。

北海道拓殖銀行の経営破たん以降、金融機関同士の経営統合・再編は大手銀行が中心になって行われてきた。しかし、近年は日本銀行のマイナス金利政策による貸出金利低下や人口減少のほか、フィンテック等の技術革新を通じた異業種の金融分野進出などにより、経営環境が大きく変わりつつある。

帝国データバンク京都支店では、2017 年 10 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている企業（147 万社、特殊法人・個人事業主含む）から、京都府の企業（2 万 9,646 社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計・分析した。

なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2016 年 12 月に続き 8 回目。

※ 本調査は帝国データバンクが独自に調査・保有している企業概要データベース「COSMOS2」に収録された企業のデータであるため、各金融機関がメインとして認識する実数とは異なる場合がある。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関をメインバンクとして集計した

調査結果（要旨）

1. 府内トップは 8 年連続「京都銀行」で、シェア 32.3%（前回 32.3%）を占める。ついで「京都中央信金」「京都信金」が続き、全体の 7 割を占めた
2. 地域別では、京都市内は「京都中央信金」がトップ、中丹、丹後など府北部は「京都北都信金」がトップで、約 6 割を占めた
3. 業種別では、7 業種すべてで上位 3 位を「京都銀行」「京都中央信金」「京都信金」が占めた。6 業種が「京都銀行」、「不動産」においては「京都中央信金」がトップとなった

1. 府内ランキング トップは8年連続で京都銀行

企業がメインバンクとして認識している金融機関の京都府内トップは、府内唯一の地銀で「飾らない銀行」を企業キャッチフレーズに積極的な新規出店を続ける「京都銀行」。同行をメインバンクとする企業数は9,590社（前回9,498社）となり、全体（2万9,646社）の32.3%（前回32.3%）を占め、8年連続でトップ。2位は信用金庫として預金量・貸金量とも全国でトップクラスにランクされる「京都中央信金」の7,416社（同7,370社）で、構成比25.0%（同25.0%）となった。府内の企業4社に1社が同信金をメインとしている。3位には「京都信金」の4,035社（同3,936社）で、構成比13.6%（同13.4%）。規模的には京都銀行、京都中央信金について第3位ながら、歴史は2行庫よりも古く、総資産は近畿地区の信用金庫としては3位の規模を誇る。前年とトップ3に変動はなく、上位3金融機関で7割を占めている。

4位は「京都北都信金」の2,061社（同2,078社）、構成比7.0%（同7.1%）。府北部と、亀岡市など中部をカバーし、確固たる基盤を有している。5位「三菱東京UFJ銀行」、6位「三井住友銀行」、7位「滋賀銀行」、8位「みずほ銀行」、9位「南都銀行」、10位は「りそな銀行」となった。前回とトップ10の顔ぶれおよび順位に変動はなかった。

ちなみに、全国のトップは「三菱東京UFJ銀行」、2位は「三井住友銀行」、3位は「みずほ銀行」、4位に「りそな銀行」と大手銀行が上位を占めており、こちらも前回と順位に変更はない。

メインバンク社数上位20

順位	金融機関名	所在地	社数	構成比(%)
1(1)	京都	京都市下京区	9,590	32.3
2(2)	京都中央信金	京都市下京区	7,416	25.0
3(3)	京都信金	京都市下京区	4,035	13.6
4(4)	京都北都信金	宮津市	2,061	7.0
5(5)	三菱東京UFJ	東京都	1,471	5.0
6(6)	三井住友	東京都	892	3.0
7(7)	滋賀	大津市	781	2.6
8(8)	みずほ	東京都	747	2.5
9(9)	南都	奈良市	620	2.1
10(10)	りそな	東京都	413	1.4
11(11)	関西アーバン	大阪府	303	1.0
12(12)	ゆうちょ	東京都	99	0.3
13(13)	商工中金	東京都	63	0.2
14(15)	京滋信組	京都市右京区	58	0.2
15(16)	但馬	豊岡市	55	0.2
16(14)	京都農協	亀岡市	54	0.2
17(19)	中兵庫信金	兵庫県	46	0.2
18(18)	福邦	福井市	45	0.2
19(17)	近畿産業信組	大阪府	41	0.1
20(21)	近畿大阪	大阪府	31	0.1

※()内は前年順位

※網掛けは順位変動あり

2. 地域別ランキング

地域別では京都府を京都市、山城、乙訓、南丹、中丹、丹後の6つの地域に分けた。

【京都市】

京都市に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、1位は「京都中央信金」の5,625社（前回5,619社）、構成比29.6%（同29.8%）で、地域別では8年連続のトップ。2位の「京都銀行」は5,611社（同5,530社）、構成比29.5%（同29.3%）で、社数・シェアを伸ばした。2行庫の差は14社（同89社）、0.1ポイント（同0.5ポイント）まで縮まり、ほぼ差がなくなる結果となった。

1位から10位まで、前年と顔ぶれおよび順位に変動はなかったが、トップ10のうち、「三菱東京UFJ銀行」「りそな銀行」「関西アーバン銀行」「ゆうちょ銀行」が前年と比較し、社数が減少した。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都中央信金	5,625	29.6
2(2)	京都	5,611	29.5
3(3)	京都信金	2,987	15.7
4(4)	三菱東京UFJ	1,282	6.7
5(5)	三井住友	755	4.0
6(6)	滋賀	717	3.8
7(7)	みずほ	659	3.5
8(8)	りそな	351	1.8
9(9)	関西アーバン	252	1.3
10(10)	ゆうちょ	73	0.4

※()内は前回順位

【山城】

府南部の山城地域では、1位は「京都銀行」の1,746社（前回1,747社）、構成比36.0%（同36.5%）で、前回と比較し、社数、シェアともに減少した。

2位は「京都中央信金」で、1,375社（同1,354社）、構成比28.4%（同28.3%）で、社数、シェアともに伸ばした。2行庫の差は371社（同393社）、構成比7.6ポイント（同8.2ポイント）と差が縮まる形となった。

トップ10の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,746	36.0
2(2)	京都中央信金	1,375	28.4
3(3)	南都	591	12.2
4(4)	京都信金	512	10.6
5(5)	三菱東京UFJ	127	2.6
6(6)	三井住友	103	2.1
7(7)	みずほ	55	1.1
8(8)	滋賀	51	1.1
9(9)	関西アーバン	43	0.9
10(10)	りそな	33	0.7

※()内は前回順位

【乙訓】

乙訓地区では、前回とトップ5の顔ぶれおよび順位に変動はなく、1位は「京都銀行」で、354社（前回346社）、構成比35.5%（同35.2%）。2位は「京都中央信金」で、307社（同294社）、構成比30.8%（同29.9%）で、上位2行庫は前回より社数・シェアともに伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	354	35.5
2(2)	京都中央信金	307	30.8
3(3)	京都信金	173	17.4
4(4)	三菱東京UFJ	40	4.0
5(5)	みずほ	22	2.2

※()内は前回順位

【南丹】

南丹地区では、1位が「京都銀行」で794社（前回789社）、構成比55.2%（同55.2%）。ついで「京都信金」が361社（同356社）、構成比25.1%（同24.9%）と社数・シェアを伸ばしたほか、3位の「京都中央信金」も社数・シェアともに伸ばした。トップ5の顔ぶれ、順位に変動はなかった。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	794	55.2
2(2)	京都信金	361	25.1
3(3)	京都中央信金	109	7.6
4(4)	京都北都信金	71	4.9
5(5)	京都農協	33	2.3

※()内は前回順位

【中丹】

中丹地区では、舞鶴市、福知山市などに本店を置いていた信金が合併した「京都北都信金」が1,272社（前回1,281社）、構成比57.7%（同58.1%）で1位。約6割と高いシェアを占めている。

ついで「京都銀行」が705社（同703社）、構成比32.0%（同31.9%）。さらに「中兵庫信金」「福邦銀行」「但馬銀行」と、隣接する近隣県に本店を持つ金融機関の進出が見て取れる。順位に変動はなかったが、「京都北都信金」の社数・シェアとともに減少した。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都北都信金	1,272	57.7
2(2)	京都	705	32.0
3(3)	中兵庫信金	45	2.0
4(4)	福邦	39	1.8
5(5)	但馬	32	1.5

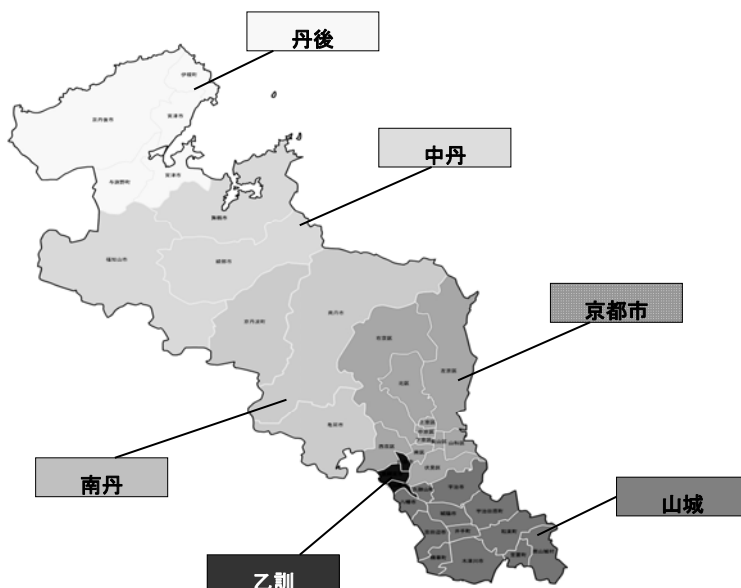
※()内は前回順位

【丹後】

京都府最北端の丹後地区では、当地に本店を置く「京都北都信金」が716社（前回722社）、構成比62.8%（同62.9%）となった。ついで「京都銀行」が380社（同383社）、構成比33.3%（同33.4%）。この2金融機関で実に96.1%（同96.3%）を占めている。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都北都信金	716	62.8
2(2)	京都	380	33.3
3(3)	京都農協	16	1.4

※()内は前回順位



※「山城」は宇治市以南、「乙訓」は向日市、長岡京市、乙訓郡、「南丹」は亀岡市、南丹市、船井郡、「中丹」は福知山市、舞鶴市、綾部市、「丹後」は京丹後市、宮津市、与謝郡で分類した。

3. 業種別ランキング

【建設業】

建設業のメインバンクを見てみると、1位は「京都銀行」で社数 2,863 社（前回 2,855 社）、構成比 31.8%（同 31.8%）となり、社数を伸ばした。2位の「京都中央信金」も社数 2,848 社（前回 2,837 社）、構成比 31.6%（同 31.6%）となり、社数を伸ばし、2行庫の差は 15 社（同 18 社）、構成比 0.2 ポイント（同 0.2 ポイント）と近接している。

トップ 10 の顔ぶれに変動はないが、6 位には前回 7 位の「滋賀銀行」が入り、前回 6 位の「三菱東京UFJ銀行」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	2,863	31.8
2(2)	京都中央信金	2,848	31.6
3(3)	京都信金	1,152	12.8
4(4)	京都北都信金	915	10.2
5(5)	南都	272	3.0
6(7)	滋賀	182	2.0
7(6)	三菱東京UFJ	176	2.0
8(8)	関西アーバン	107	1.2
9(9)	三井住友銀行	103	1.1
10(10)	みずほ	77	0.9

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

【製造業】

製造業では、1位は「京都銀行」で社数 1,456 社（前回 1,425 社）、構成比 35.5%（同 35.6%）となり、シェアは減少したが、社数を伸ばし、首位を堅持。2位以下では、2位の「京都中央信金」が社数 830 社（前回 799 社）、構成比 20.2%（同 20.0%）と社数・シェアともに伸ばした。

トップ 10 の顔ぶれに変動はないが、前回「三井住友銀行」と同じく 6 位だった「みずほ銀行」が、7 位と順位を落とした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,456	35.5
2(2)	京都中央信金	830	20.2
3(3)	京都信金	723	17.6
4(4)	三菱東京UFJ	270	6.6
5(5)	京都北都信金	161	3.9
6(6)	三井住友	155	3.8
7(6)	みずほ	149	3.6
8(8)	滋賀	130	3.2
9(9)	りそな	69	1.7
10(10)	南都	64	1.6

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

【卸売業】

卸売業でも、上位 3 行庫の顔ぶれ・順位に変動はない。1位は「京都銀行」で社数 1,316 社（前回 1,312 社）、構成比 32.6%（同 32.7%）となり、シェアは減少したものの、社数は増加した。上位 3 行庫のうち、3位の「京都信金」が社数 569 社（前回 547 社）、構成比 14.1%（同 13.6%）と社数・シェアともに伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,316	32.6
2(2)	京都中央信金	865	21.5
3(3)	京都信金	569	14.1
4(4)	三菱東京UFJ	330	8.2
5(5)	みずほ	197	4.9
6(6)	三井住友	168	4.2
7(7)	滋賀	163	4.0
8(8)	京都北都信金	150	3.7
9(9)	りそな	95	2.4
10(10)	南都	63	1.6

※()内は前回順位

【小売業】

小売業でも、上位3行庫の顔ぶれに変動はない。
1位の「京都銀行」は社数1,044社(前回1,026社)、
構成比31.4%(同30.7%)と、社数、シェアともに伸ばし、首位を堅持した。一方、2位の「京都中央信金」と3位の「京都信金」は社数・シェアともに減少する結果となった。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、「京都銀行」「りそな銀行」以外の金融機関は、社数が減少となった。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,044	31.4
2(2)	京都中央信金	764	22.9
3(3)	京都信金	552	16.6
4(4)	京都北都信金	338	10.2
5(5)	三菱東京UFJ	146	4.4
6(6)	三井住友	101	3.0
7(7)	みずほ	86	2.6
8(8)	滋賀	68	2.0
9(9)	南都	65	2.0
10(10)	りそな	48	1.4

※()内は前回順位

【不動産業】

不動産業では、7業種のうち唯一「京都中央信金」が社数736社(前回739社)、構成比33.6%(同33.7%)と1位となった。社数、シェアともに減少したが、2位の「京都銀行」との差は社数186社(前回185社)、構成比8.5ポイント(同8.4ポイント)と前回よりも広がる形となった。

前回同様8位の「関西アーバン銀行」は、建設に続きランクインしており、建設・不動産関連での進出がうかがえる。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、6位には前回7位の「京都北都信金」が入り、前回6位の「滋賀銀行」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都中央信金	736	33.6
2(2)	京都	550	25.1
3(3)	京都信金	236	10.8
4(4)	三菱東京UFJ	115	5.2
5(5)	三井住友	91	4.1
6(7)	京都北都信金	71	3.2
7(6)	滋賀	70	3.2
8(8)	関西アーバン	61	2.8
9(9)	みずほ	59	2.7
10(10)	りそな	43	2.0

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

【運輸・通信業】

運輸・通信業では、1位は「京都銀行」で、社数239社(前回240社)、構成比32.1%(同33.4%)。社数・シェアともに減少。2位の「京都中央信金」との差は社数53社(前回67社)、構成比7.1ポイント(同9.3ポイント)と縮まっている。

上位3行庫では、3位の「京都信金」も「京都中央信金」と同様に社数・シェアを伸ばした。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、7位には前回8位の「滋賀銀行」が入り、前回7位の「みずほ銀行」と順位を入れ替えたほか、「南都銀行」が前

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	239	32.1
2(2)	京都中央信金	186	25.0
3(3)	京都信金	117	15.7
4(4)	京都北都信金	42	5.6
5(5)	三菱東京UFJ	39	5.2
6(6)	三井住友	25	3.4
7(8)	滋賀	20	2.7
8(7)	みずほ	18	2.4
9(9)	商工中金	14	1.9
9(10)	南都	14	1.9

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

回 10 位から 9 位に順位を上げた。

【サービス業】

サービス業においても、1 位は「京都銀行」で、社数 2,059 社（前回 2,021 社）、構成比 34.4%（同 34.0%）と、社数、シェアともに伸ばした。2 位の「京都中央信金」と 3 位の「京都信金」はともに社数が減少となった。

トップ 10 の顔ぶれに変動はなかった。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	2,059	34.4
2(2)	京都中央信金	1,149	19.2
3(3)	京都信金	667	11.2
4(4)	三菱東京UFJ	377	6.3
5(5)	京都北都信金	362	6.1
6(6)	三井住友	240	4.0
7(7)	みずほ	156	2.6
8(8)	滋賀	146	2.4
9(9)	南都	111	1.9
10(10)	りそな	83	1.4

※()内は前回順位

4.まとめ

国内金融業界ではマイナス金利下における収益力の低下や異業種からの参入など、経営環境は大きく変わりつつあり、過度な金利競争から脱却する新たなビジネスモデルへの転換が急務となっている。TDB が実施した調査の中では、金融競争の厳しい地域では企業の平均借入金利が全国平均を下回る一方、金融競争が比較的穏やかな地域では平均借入金利が全国平均より高い傾向も見られ、地方銀行を中心とした金融再編は、地域金融機関の競争力強化に向けた経営策の一つと言えよう。他方、地域金融機関の再編・統合について“借り手”である需要者の立場を重視する考え方もあり、再編・統合に伴う独占の利益に対して懸念も示されている。

京都府においては、「京都銀行」が 8 年連続でトップとなった。ついで、「京都中央信金」「京都信金」となるが、3 行庫で全体の 7 割を占め、メガバンクですらシェア 1 割を下回るなど他の追随を許さない強固な営業基盤を築いている。中丹地区以北では、京都北都信金が中丹地区でシェア 57.7%、丹後地区で 62.8%と高いシェアを占めたものの、地域、業種を問わず、上位を 3 行庫で占める構図に変動はなかった。

信頼関係が何よりも重視される京都府の風土から短期的に見て、昨今の低金利による貸し出し競争の結果、メインバンクに入れ替わりがあるなど上位 3 行庫を脅かす大きな変動は考えにくい、将来的な人口減少という問題は京都府においても例外ではなく、将来を見据えた再編の可能性も否定できない。

金融庁は、従来の信用保証・担保依存から「事業性評価」に基づく融資姿勢への転換や、企業の経営支援を重視する「金融仲介機能のベンチマーク」の利用を金融機関へ積極的に呼びかけてきた。こうしたなか、2017 年 5 月に同庁が実施した企業向けアンケートでは、経営上の課題をよく聞いてくれる地銀ほど、利回り低下幅が緩やかとなる傾向が明らかとなった。こうした金融仲介機能の十分な発揮に向け、地域金融機関においては金融庁が「平成 29 事務年度 金融行政方針」で示す「持続可能なビジネスモデルの構築」への対応が急がれよう。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 京都支店 担当：渡辺雄大

TEL (075) 223-5111 FAX (075) 223-5200

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。